

---

# 転生妄想日記

B M 黒流星

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

転生妄想日記

### 【Zコード】

N3473BA

### 【作者名】

BMM黒流星

### 【あらすじ】

目が覚めたら神様が転生しないかといつてきました

いつのまにか神に気にいられた俺

ネギまの世界に行ってこい？

原作崩壊OKだって・・・いいだろひ行ってやんよ

オリ主によるチート＆ハーレム？の【転生妄想日記】はじめます！

## プロローグ？（前書き）

処女作です！

至らぬ点や誤字脱字があったらこいつて貰えると幸いです

## プロローグ？

「転生してみないか？」

何言つてんだこの爺www

夢かーww

最近疲れてるしな

「おーい無視するじゃない！」

なんだよ寝させろよ・・・

最近疲れてるつていつたろ

だいたいここ何処だよ？？

なんだこのアリ○ール使ったよつな白い部屋は（笑）

「だから無視するんじゃないわい（怒）」

ハアーいいかげん相手してやるか

「で、あなたは誰なんですか？」

「ほつやつと話を聞いてくれるのかのー？」

【心情・まづ誰か聞かなきゃ話にならんだる】

「ああ まづijiは何処なのかとあなたは何者なのか教えてくだ  
れこ？」

「儂は、神じゃ！」

は、今何て言ったこのジジイボケたかボケてるのかボケてるんです  
か三段活用 WWW上条さんひとつ

「は、神・紙・髪・いや！」まさかの加味？」

「こや、いらっしゃに聞かれても…だーから神じゃよ神」「シトジモ  
ヤ！」

えつー神、「シト」とのジジイ今自分のこと「シトって言つたな、ボ  
ケてるんじゃなく危ない人かよ  
やべーよ田舎せなしようにしなきやな  
いい医者紹介してやるーか（笑）

「お主、さつきから随分と失礼じゃな（怒）」

やべつて口に出てたか

「こつたじゅる神だと読心術は簡単にできるわ

まじかよ、こいつまじて神なのか？

「わかつた、神（仮）ここは何処なんだ？」

「仮はよけいじゅーまあよこわー」せ生と死のせぬまのね聞こせ

ん、ちよつと待て今何て言った・・・生と死の空間だと

「おーー！神様よお俺は死んだのか？」

神様の表情少し曇る

「お主には大変申し訳ないのじゃがこちひの//スでお主を殺してしまったのじゃ」

なん・・・だと  
そつか俺死んだのか

「本当に申し訳ない」

土下座するんじゅねえのかつて勢いで謝る神

！」まできれたら許してやるか

「おいおい、神様あるー者がそんなに謝るなよー。」

「誰にだつてミスはあるだらーしょ」

「なんと、心の広い若者じゅ気に入った！」

「ハハありがとうよ神様」

「で、俺はどうすればいいんだ天国か地獄にいくのか？」

天国かー行ける気がしねえなんだかんだで悪行してたからなあガラス割つたり住居侵入したり蛍光灯割つたりなー

(作者のことじやないよ、ほんとだよ)

ん、今なんか電波が気のせいか、しかし地獄かーいやだなあー

「いじめのミスじゃから天国でも地獄でもなくお主には、転生してもいいだゼ」

「転生？転生つてあれか、よく一次創作とかのあれなのか？」

「そうじやその転生じや！」

まじかよ、転生？

オタクの憧れの転生だと

きた、俺の時代・・・

「我が世の春が来たー！」いかん俺としたことが取り乱しちまった

冷静になれ俺、KUKEIにいやCOOLになれ！

よし、落ち着いてきた！

次話に続く！

プロローグ？（後書き）

感想おまちしてます。

## プロローグ？（前書き）

1日に2話は、キツイ！

誤字脱字＆感想まつてます

## プロローグ？

「ああ、お主は、何処の世界にいきたいのじゃ？」

「迷つてこらぬつじやなでは、ここから行く世界を絞るかのあ

「「」の三つから選ぶのじやー！」

・ネギま

・F a t e

・なのは

まず、なのは・・・無いな肉体言語は、ダメ絶対！  
F a t eは、個人的には好きだがバーサーカーと某金ぴかに勝てる  
気がしねえ

てことは、ネギま一択じやねえかよ

まあいいか赤松ワールドは可愛い子多いし！

「神様、俺はネギまの世界に行くよー！」

「まうー・ネギまの世界かでは、次にお主に能力を授けようつかのう」

能力かー テンプレ的には1～3多くて5個つてとこだな

「なあ神様、何個くらいその能力つてのくれるんだ?」

たのむ5個、5個くれ頼む300円上げるからー

「せうじゅやーお主に授ける能力の数は・・・」

5個だと言ってくれ

「お主は儂が気にいってるの何個でもよーぞー!」

なん・・・だと!  
今何て言つた・・・

「何個でも?」

「何個でもじゅーぜ！」

「う、リアリイ？」

「イースジヤ

「ぱ、パードゥンヘ」

「だから、イースジヤ てそれともこらんのか？」

「こぬー。」

「だつたら早く決めんかい」

「チートでもこいのか？」

「ちーと、とはなんじや？」

「反則的な能力のことだ」

「どんな能力でもバツチこいじやー。」

まじかよ・・・

これまさか俺tueeeeeeeeフラグなのか?  
じゃ割りきつて能力決めますか!

- ・1つ目は、どんなスキルでも作れる【異能創作】【スキルメーカー】

- ・2つ目は、どんな物（武器）でも作れる【万物創作】【アカシックメーカー】

- ・3つ目は、成長限界の無い体（魔力&気）

- ・4つ目は、最高の盾ぶつちやけ、ドリームオーラ（元ネタはロジ○マン）

- ・5つ目は、イケメンにしてモテモテにして（フラグメーカー）

- ・6つ目は、魔眼、右目がギアスで左目が直視の魔眼

- ・7・・・は、あれもう無いぞ??7、7つ目はーあつた  
アカシックレコードが使いたい！

「いいぞー。」

はや？？

こんなに早く決めていいのかよー。

「大丈夫じゃ！ 儂偉いからドヤッ

いやドヤッつてされても

「神様あんた名前は？」

「儂の名前はオーティンじや

「メチャメチャ偉いじゃん（驚）」

「だから、モーマンタイじや」

だまれ似非中国人 www

「じゃ能力を与えよう！ だがかなり激痛が走るので気お付けるのじ  
や

は？激痛？

「じゅいぐわ！」

ちよ　ｗｗｗおま　ｗｗ

一時間後！

痛かった死ぬかと思つたぜどんな痛みかつて？いえたもんじゅねえ  
拷問とか肉体言語なんてもんじゅねえもつと恐ろしいものを見たぜ

「うむ、無事に能力は付加されたようじゅな」

無事だとこの様子を見て無事というのか貴様は？

「魔力と氣は見つけられたかのう？」

魔力と氣か・・・このじんわり暖かいのが氣だな魔力はこのひんや

りした感じだな

「なあ、オーディン魔力と気多くね?」

「つむ、儂特製バッグ仕様じゃー。」

まあ多いにこしたことはないか

「ああ、そろそろネギまの世界に行つてもいいだぞ」

「ああ、わかつた! だがその前に聞きたいことがある」

「なんじや?」

「ネギまの世界に行つてもいいが別に原作を壊してしまってもかまわないのだう?」

「大丈夫だ、問題ないー。」

「じゃ逝つてーーー。〇〇〇〇よー。」

「ああ、行つてへるよ（逝つて）？」 オーテイン

下に穴が空き・・・

ん、穴？

そのまま急転直下！

「謀つたなオーテインんんんんん」

あこついつが殺す！

次話に続く

## プロローグ？（後書き）

書いてみてわかるこの難しさ普段何気なく見てている作品がどんなに大変か分かった今日この頃

## 主人公設定（前書き）

主人公設定です

## 主人公設定

名前【衛宮双紺】

身長177cm / 体重：63g

属性：中立

イメージカラー：黒

好きなもの：家族、鍛練

嫌いなもの：自称正義の魔法使い、仲間に傷つけるもの

顔：上の上、神様の力によりこれでもかといつくらいのイケメン！

性格：基本優しい、キレると怖い、仲間や家族に傷付けた者には容赦がない

保有スキル

- ・異能創作【スキルメーカー】・・・ぶっちゃけどんなスキルでも創れる！チートも真っ青なバク

- ・万物創作【アカシックメーカー】・・・ぶっちゃけなんでも創れる！必要素材必要なし！等価交換なにそれおいしいの？を地でいくスキル、まあバク

- ・魔眼・・右目が【ギアス】左目が【直視の魔眼】どっちも負荷なしwwwルルーオュ&志〇の苦労をあざ笑つかのような魔眼
- ・フラグメーカー・・・言わずもがな主人公の必須スキル別名フラグ一級建築者
- ・完成【ジ・エンド】・・・黒神めだかが使うアブノーマル見たスキルを自分のものにしより高いものに昇華するスキル、主人公は【スキルメーカー】でこのスキルを自分の知っているスキルでさえ昇華できるように創作した

- ・無限の剣製【unlimited blade works】
- ・某アーチャーの固有結界【スキルメーカー】にて創作後【アカシックメーカー】で宝具を創作し全ての宝具を投影することが可能になった、さらにそこに【ジ・エンド】が加わりもはや贋作ではなく本物以上の宝具を投影可能アーチャー涙目ww
- 詠唱は・・・

I am the bone of my sword .

体は剣で出来ている。

Steel is my body , and fire is  
my blood .

血潮は鉄で 心は硝子。

I have created over a thousand  
blades .

幾たびの戦場を越えて不敗。

Unknown to Death .

ただの一度も敗走はなく、

Unknown to Death .

No known to life .

ただの一度も理解されない。

Have withstood pain to  
eate many weapons .

彼の者は常に独り 剣の丘で勝利に酔う。

Yet , those hands will never ho  
ld anything .

故に、生涯に意味はなく。

So as I pray , unlimited bl  
ade works .

その体は、きっと剣で出来ていた。

・森羅万象【アカシックコード】・・・主人公は、グーグ〇とし  
か見ていない

## 宝具一覧

・王の財宝【ゲート・オブ・バビロン】

ランク：E → A ++

種別：対人宝具

レンジ：-

主人公が【アカシックメーラー】にて創作無限の剣製で投影された宝具と創作した宝具が入っているため某金ぴかより断然財宝が多い

・【ドリームオーラ】

ランク：EX

ロックオンの某オーラ

オーディンの力によつて極限まで強化されているぶっちゃけオーディンと主人公しか壊せない

【ステータス】

【筋力】：EX 【耐久】：EX 【敏捷】：EX 【魔力】：EX 【幸運】：EX 【宝具】：EX

リミット有りの場合はAまで低下

魔力＆気オーディンのバク仕様によりほぼ しかも限界がないので 使つたびに増加する

魔術回路

凛の〇倍これも使つたびに増加するバク仕様

次話に続く

## 主人公設定（後書き）

だいぶバク仕様になってしまったwww 設定を書いていたら楽しくなつてついやつてしまつた後悔はしていない

感想まつてます

## 第一話（前書き）

駄文です。

文才が欲しいと思つ今田の頃

感想まつてます。

## 第一話

SHDE・ソウヒ

「ヤバイ！ヤバイ！ヤバイって死ぬよ、死んじゃうよ、俺死ねるう  
う――――――――――――――――――――――――――――――――

皆様悲鳴から入って申し訳ない、衛宮双緋【えみやそうひ】だ

ただいま急転直下空の旅の途中である。  
なぜかつてあのくそヤロー  
(オーディン)のせいだよまつたく次あつたら一発殴らんと気がす  
まん。

と、まあ現実逃避はやめよう現状確認だな

・パラシューート無しのスカイダイビング中(2000～30000  
m)

あれ、これ死亡フラグ?  
嫌な予感

まで、まで、諦めるな俺、俺には能力があるんだ。

あれーこれマジで詰んだかも  
ん、能力の使い方わからん

目の前地面だし・・・

やっぱ死亡フラグだな

もういいこのまま地面とキスだ！

男は度胸なんでも試してみるものだと某自動車整備工場勤務の青い  
つなぎのイイ男が言っていたしな

さあ地面とじ対面だ

ド-----ン

主人公は、 気絶した

S H D E · E N D

キングクリムゾンっー！

SIDE・ソウヒ  
いてーよ、なんだよ死んでからうくな日にあつてねえーな俺  
まあいいそれよりも大事なことは、ここは何処で原作の何年前なん  
だ?

「どーやって確認すればいいんだ」

そう思った矢先天から一枚の紙が落ちてきた

SIDE・紙（神）

「これを見ているとこう」とは、無事に転生できたとこう」とじゅ  
な、お主を送った場所はヨーロッパじゃ時間は原作の800年前じ  
や、そして能力の使い方は――略――じや、儂はお主のこ  
とを見守っているで、ではな

SIDE・紙（神）END

SIDE・ソウヒ

ヨーロッパ？原作800年前だと・・・

エヴァフラグきたーーー

これは、介入するしかないでしょ

ん、でもあと200年後のことだな

「よし、修行をしよう」

京都にいこう的なりで修行開始

「まず、認識阻害結界貼つてと」

「次に、ダイオラマ球かーよし、混ぜてこねてつと」

【アカシックメーカー】 使用中

5分後

「完成つとー。」

「ま、中の中の時間が一いつ日の一日が中では、10日くらいでいい  
か」

「じゃ、入るか」

SIDE·END

次話に続く

## 第一話（後書き）

感想まとめます。

## 第一話（前書き）

今回はいつもより断然短い＆駄文です。

ハーレムメンバーのアンケートを行いたいと想います！

感想に好きなキャラを書いていて送って貰えると幸いです。

## 第一話

SHDE・ソウヒ

「ダイオラマ球（以降別荘と表示）の中に入つてみたがなんにもねえな」

一面見渡しても真っ白である。

「まず、修行の前に家でも作るか」

さあ、どんな家にするか

武家屋敷？洋館？城？

城かー

城いいなあよし城にしよう

「そつと決まつたら早速作るか

【アカシックメーカー】発動

城創作つと

「混ぜてーこねてーつと」

いやいやそんなんで作れないだろb y作者

「大丈夫だ、問題ないキリツ」

あれ、今俺誰に向かつて喋つたんだ？

電波か？

いやこれがかの有名な宇宙意思なのか？

【主人公取り乱し中です】

落ち着け俺C O O Lにだ・・・・・

よし落ち着いた！

「さすがに、城となると時間がかかるか

うーん暇になっちゃったなあ

そうだ別荘の設定変えよう

まず自然欲しい

これは、自分で作るから問題ないな

じゃ、作りますか

【アカシックメーカー】発動

## 植物の創作つと

「混ぜてーこねてつと」

いやいやだからそん（ゝゝ

つるわいお前の文才がないのが悪いんだ黙つてろ

よし、植物もできて外觀は良くなつたな！

「まだ城は、できないのか？」

ふと後ろを見ると

巨大な城が！

ぽつかーん

【主人公放心中】

「でか」

その一言しかでなかつたそ�だ

次話に続く

## 第一話（後書き）

ハーレムメンバーのアンケートよりしつくお願いします

次回からは、本格的に修行です！

## 第二話（前書き）

またまた駄文です。

## 第三話

SHADE・ソウビ

ぽつかーん

「でつけー」

今、俺は自分で作った城のデカさに呆れている

「誰だよ、こんなデカい城作ったの？」

いやいやお前だよ

「まあーいつか大は小をかねるって言つし

まあいいや  
さあ修行だ！

修行つてまずは、まにすればいいんだろうーなー

まずは、祈りを捧げながらの1日1万回の正拳付きだな

「よし、開始！」

キングクリムゾン！

無理！

祈りを捧げなけながら1日1万回は、無理！

祈り捧げながらは、2千回が限界だ、これは、毎日やつて増やして

いくしかないな

魔法面は一あれだあれ

「プラクテ・ピギ・ナル  
　　アールデスカット」

ん、・・・・・・・・・・なんもでねえ！  
あつれえーけつー皆簡単に出してたじょん

二、回一、甲

「プラクテ・ピギ・ナル アールデスカット」

でねえよ！

才能ないのかなあ俺？

否、**氣合**いがたりねえ

筋肉、ダルマも言っていた世の中**氣合**いだ**氣合**いがあればなんでもできむと

すーはーすーはー  
よー！

「**プラクテええー・ピギ・ナルううう** アールデスカットおおおー  
！！！」

ぼう！

付いた日が付いたぞこれで俺も魔法使いだ―――！

こんな感じで一日は終わっていいうううううう――

次話に続く！

## 第三話（後書き）

あれえ主人公正拳 × 2000回と魔法の練習しかしてねえ

・・・・まあ次からは、チート＆バグ全開です！

## 第四話（前書き）

やつと投稿でもしました

ハーレムの応募はまだ続いている。

ご感想よろしくお願ひします

## 第四話

SHDE・ソウヒ

さて修行の続きだ

どーも皆さん双緋だ！

修行開始からかれこれ10年です。

えっ時間たつのが早すぎ？だって毎日の修行風景なんてあんまり変わませんよ

まあいいからこれから10年の修行をダイジェストで教えましょ

祈りの正拳付きやつと1日で半分できるよくなつたか  
まあこれだけは、しょうがないか継続は力なりつてね

魔法面

よし

「光の精霊1-1柱『魔法の射手・連弾・光の1-1矢』」

ドッ  
ズカーン

よしなんとか魔法の矢はうてるよくなつたぜ

5年目

できたやつと1日で祈りの正拳付きが1万回できたぜ

後は、これを繰り返すのみ

## 魔法面

「光の精靈――！『光の射手――矢』」

ドッ

ズガガガガガガガガ

うん大分ましになつたな

ちょっと上級魔法いつてみつか

「ジ・ルナ、ジ・ソル、ジ・アース、来れ雷精風の精雷を纏いて吹  
きすさべ南洋の嵐『雷の暴風』」

ド――――――――――――――――――――――――――――――――――

やつベーなんだこれカツコイイぞ

もはやビームだな

10年目

あれだ祈りの正拳のほうは例のあががでるようになつた以上!!

魔法面

「ジ・ルナ、ジ・ソル、ジ・アース契約に従い、我に従え、高殿の王、来れ、巨神を滅ぼす燃え立つ雷霆。百重千重と重ねりて、走れよ稻妻『千の雷』！」

ズガツ

— ン

なんだこれヤバいな

漫画で見るのとは大違いだ

後は、これを

「ジ・ルナ、ジ・ソル、ジ・アース契約に従い、我に従え、高殿の王、来れ、巨神を滅ぼす燃え立つ雷霆。百重千重と重ねりて、走れよ稻妻『千の雷』」

ドゥン

「固定！『千の雷』掌握！」

「術式兵装『雷天大壯』」

できた！

できたらぞ闇の魔法！

こんな感じの10年間でした

次話に続く

## 第四話（後書き）

主人公に従<sup>メイテ</sup>者的な作<sup>ハタツ</sup>りと思<sup>ハシメテ</sup>つんですがどうでしょ<sup>ウ</sup>う？

夢さん七夜和<sup>セナナヒ</sup>さん、感想ありがとうございました

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3473ba/>

---

転生妄想日記

2012年1月14日19時54分発行